

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
岐阜市	北長森	令和3年3月12日	令和5年3月1日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	112.76 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	68.06 ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	25.68 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	11.74 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	11.74 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	5.65 ha
(備考) 地区内の耕地面積112haの内訳：水田 60ha / 畑 52ha	

- 注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

稲作について、中心経営体へ農地の集積・集約化を進めているが、ほ場の区画が狭小な苗田地区があることや中心経営体の数が不足しているため、担い手への集積が困難となっている。
また、特色のある園芸作物が作られているが、市街化区域内農地が多い為、担い手への集積が困難となっている。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

中心経営体への農地の集積・集約化と、個人農業者の農地利用が効率的に行えるよう、農地の利用調整を更に進めていく。
また、引き続き集落営農組織を立ち上げ、中心経営体の数を増やすことで、農地の集積・集約化を推進させていく。

- 注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。
注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

○長森地区ほ場整備事業の取組方針

農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、北長森地区において農地の大区画化・汎用化等の基盤整備に取り組む。ほ場整備事業を活用し、農地環境を良好にすることで、農振農用地地域での担い手への集積・集約を進めていく。また、引き続き集落営農を立ち上げ、地区の中心経営体を増やす。

○農地中間管理機構の活用方針

平成26年度の制度開始以来、農地の集約化を目指し、農地所有者から機構への貸し付けを推進してきた。今後も、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を機構に貸し付けていくこととし、中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。